

Winbiff から Thunderbird への移行

総合情報基盤センター

技術専門職員 小野 隆久

1. Winbiff から Thunderbird への移行準備

Winbiff から Thunderbird へ移行するには、Winbiff、Thunderbird それぞれに移行するために必要な機能の追加とメールデータを保存するためのフォルダを用意します。

1-1 メールを mbox 形式データでエクスポートする Winbiff の機能

Winbiff のローカルフォルダに保存されたメールを Thunderbird に移行するには、Winbiff のローカルフォルダに保存されているメールを mbox 形式データでエクスポートできる機能が必要です。

Winbiff でその機能を有するのは、2.50 以上のバージョンからです。Winbiff のバージョンが 2.50 以下の場合は、2.50 以上にバージョンアップを行ってください。なお、バージョンアップを行う場合は、必ず現在使用している Winbiff のバックアップを取ってから行ってください。

1-2 mbox 形式メールデータをインポートする Thunderbird の機能

Winbiff から mbox 形式でエクスポートしたメールデータを、Thunderbird にインポートするには、Thunderbird に ImportExportTools というアプリケーションソフトがアドオンされていなければなりません。

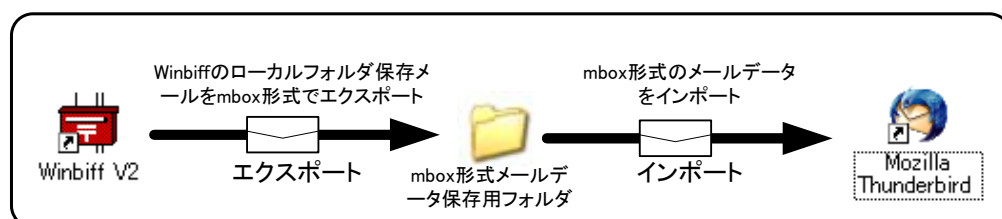
この ImportExportTools をダウンロード (<http://nic-nac-project.de/%7Ekaosmos/mboximport-en.html>) し、下記の手順で Thunderbird にアドオンしてください。

- (1) Thunderbird を起動します。パスワード入力画面が表示されたら [キャンセル] ボタンをクリックします。
- (2) [ツール] [アドオン] を選択し、開いたアドオンの [拡張機能] で [インストール] をクリックします。
- (3) ダウンロードした「ImportExportTools-1.3.xpi」を選択し、[開く] [今すぐインストール] をクリックします。
- (4) [Thunderbird を再起動] をクリックすればインストール完了です。

1-3 mbox 形式メールデータを保存するフォルダの作成

Winbiff のローカルフォルダに保存されているメールを mbox 形式でエクスポートしたメールデータを保存するためのフォルダを作成してください。

1-1 から 1-3 までの作業が移行準備です。移行準備が終わったら、Winbiff から Thunderbird への移行作業に進むことができます。



2. Winbiff から Thunderbird へのメールの移行作業を行うときの注意

- (1) 作業中に Winbiff でメールを受信しないように、Winbiff の受信問い合わせ間隔を 60 分以上に設定変更して Winbiff を再起動後に移行作業を行ってください。
- (2) メール移行作業中に誤って Winbiff でメールを受信する場合がありますので、「受信時にメールをメールサーバに残す」設定にしておきましょう。
- (3) メール移行作業が終了するまで「ひらめーる」は閉じないようにしてください。
- (4) メール移行作業の前に不要なメールは削除しましょう。

3. Winbiff のローカルフォルダ保存メールを Thunderbird へ移行

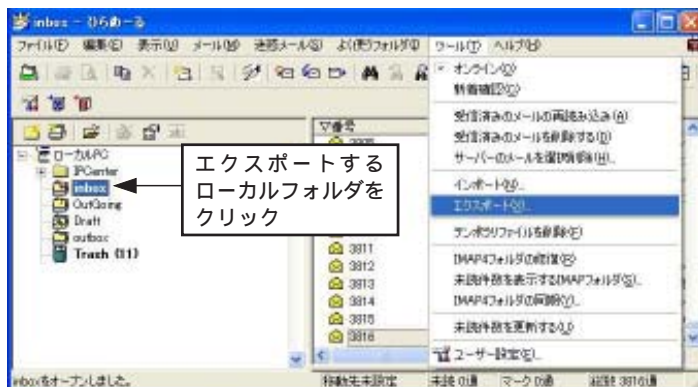
Winbiff のローカルフォルダに保存されているメールを Thunderbird に移行する作業は、下記の手順で行います。

3-1 Winbiff のローカルフォルダ保存メールのエクスポート

- (1) Winbiff の[よむ]ボタンをクリックし、「ひらめーる」を開きます。(図 3-1)
「ひらめーる」のエクスポートしたいローカルフォルダをクリックし、「ツール」「エクスポート」を選択します。(図 3-2)

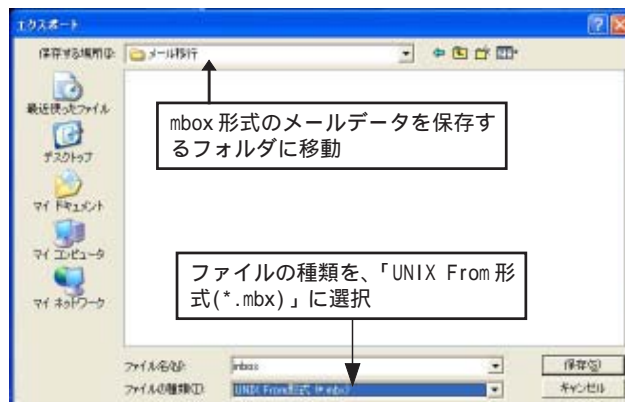


(図 3-1)



(図 3-2)

- (2) 保存する場所を、mbox 形式メールデータを保存するために作成したフォルダを指定します。
- (3) ファイル名は、エクスポートするローカルフォルダ名になっています。ファイルの種類は「UNIX From 形式(*.mbx)」を選択し[保存]ボタンをクリックします。(図 3-3)



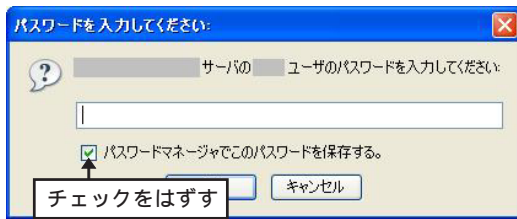
(図 3-3)

上記手順で全てのローカルフォルダのメールをエクスポートします。

3-2 mbox 形式メールデータを Thunderbird にインポート

- (1) Thunderbird を起動します。パスワードの入力画面が表示されたら「パスワードマネージャでこのパスワードを保存する」のチェックを解除し、[キャンセル]ボタンをクリックします。(図 3-4)

ローカルフォルダをクリックします。次にローカルフォルダを右クリックし、「読み込み、書き出し」「mbox ファイルを読み込む」を選択します。(図3-5)

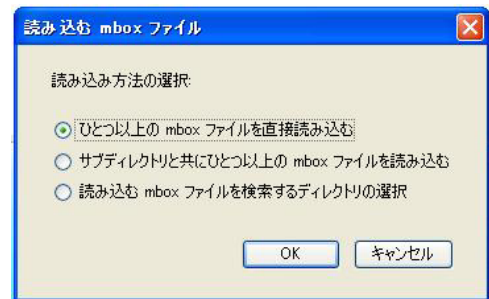


(図3-4)



(図3-5)

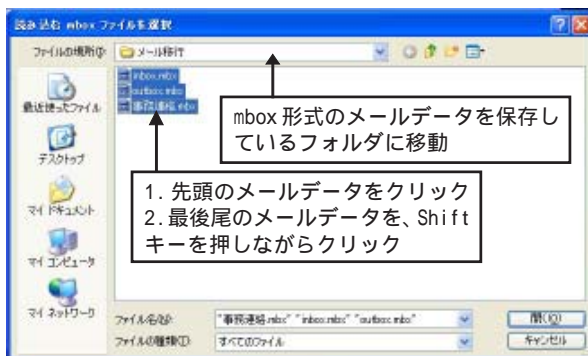
- (2) 「ひとつ以上のmbox ファイルを直接読み込む」にチェックが入っていることを確認したら [OK] ボタンをクリックします。(図3-6)



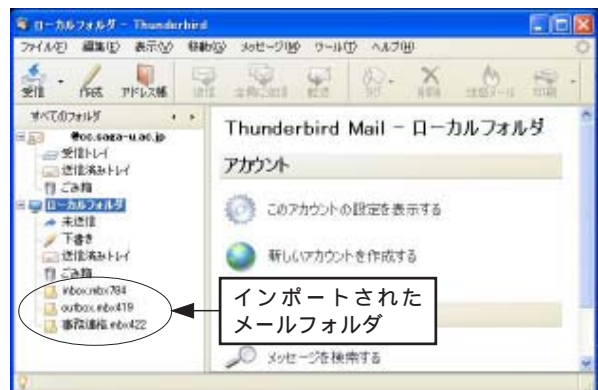
(図3-6)

- (3) Winbiffからエクスポートしたmbox形式のメールデータを保存しているフォルダに移動し、先頭のメールデータをクリックした後、最後尾のメールデータを[Shift]キーを押しながらクリックします。インポートするメールデータを全て選択したら [開く] ボタンをクリックします。(図3-7)

ローカルフォルダの下にインポートしたメールボックスが作成されます。(図3-8)



(図3-7)



(図3-8)

インポートするメールデータのファイル名が、Thunderbirdのローカルフォルダの配下に作成されるメールフォルダ名になります。

Winbiffでは、受信メールは「inbox」に、送信済みメールは「outbox」に保存されるのに対し、Thunderbirdでは、受信メールは「受信トレイ」に、送信済みメールは「送信済みトレイ」に保存されますので、Winbiffで送受信したメールとThunderbirdで送受信したメールを区別することができます。

4. Winbiff のアドレス帳を Thunderbird へ移行

4-1 Winbiff のアドレス帳をエクスポート

- (1) Winbiff の「ユーザー」 「アドレス帳を表示」を選択します。(図 4-1)
アドレス帳の「ファイル」 「エクスポート」を選択します。(図 4-2)



(図 4-1)

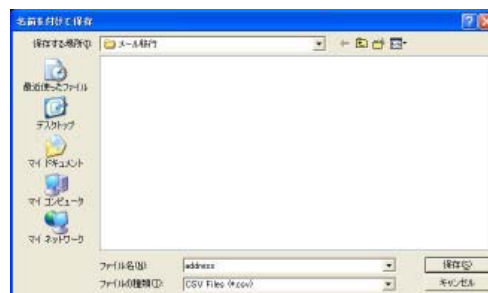


(図 4-2)

- (2) 「エクスポート」画面の[参照]ボタンをクリックします。(図 4-3)
「名前を付けて保存」画面が表示されたら、保存するフォルダに移動しファイル名を入力して[保存]ボタンをクリックします。(図 4-4)



(図 4-3)

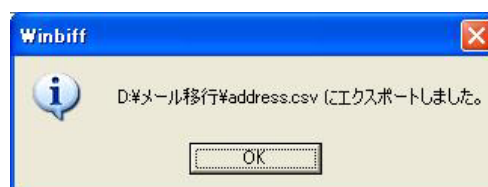


(図 4-4)

- (3) 「エクスポート」画面が表示されたら[完了]ボタンをクリックします。(図 4-5)
「Winbiff」画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックします。(図 4-6)



(図 4-5)



(図 4-6)

4-2 エクスポートしたアドレス帳の確認

Winbiff からエクスポートしたアドレス帳は、csv形式(カンマ区切り)のファイルになっています。

エクスポートしたファイルをメモ帳などのエディタで内容を確認し、必要に応じて、氏

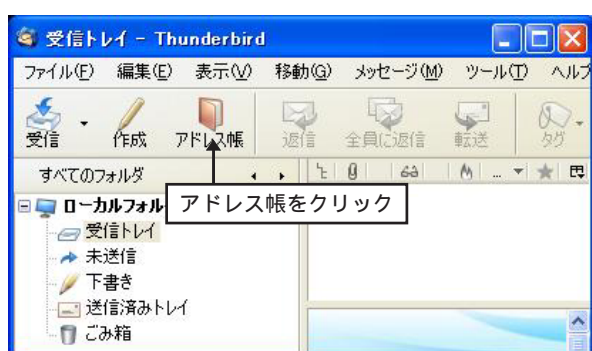
名や所属の修正、不要なアドレスデータがあれば削除します。

Winbiff からエクスポートした csv 形式ファイルの例
佐賀太郎 ,taro@cc.saga-u.ac.jp, , , 総合情報基盤センター ,
佐賀花子 ,hanako@cc.saga-u.ac.jp, , , 総合情報基盤センター ,

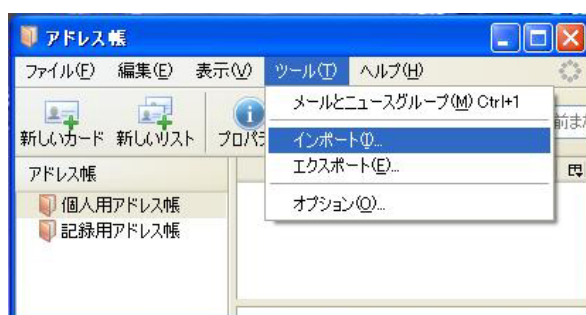
ファイルの内容確認が済んだら、Thunderbirdのアドレス帳にインポートします。

4-3 Thunderbird へのインポート

- (1) Thunderbird を起動します。パスワードの入力画面が表示されたら、[キャンセル] ボタンをクリックします。
- (2) Thunderbird の「アドレス帳」をクリックします。(図 4-7)「アドレス帳」画面が表示されたら、「ツール」 「インポート」を選択します。(図 4-8)

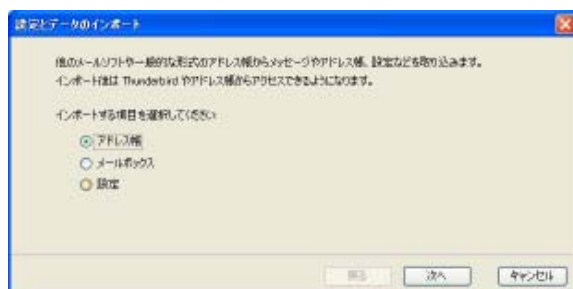


(図 4-7)

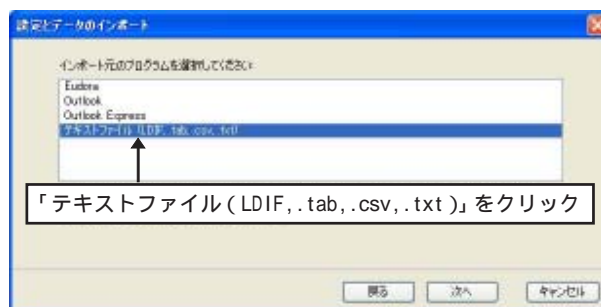


(図 4-8)

- (3) 「設定とデータのインポート」画面が表示されたら、「アドレス帳」にチェックが入っていることを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。(図 4-9)
次の画面が表示されたら「テキストファイル(LDIF, .tab, .csv, .txt)」をクリックし、[次へ]ボタンをクリックします。(図 4-10)

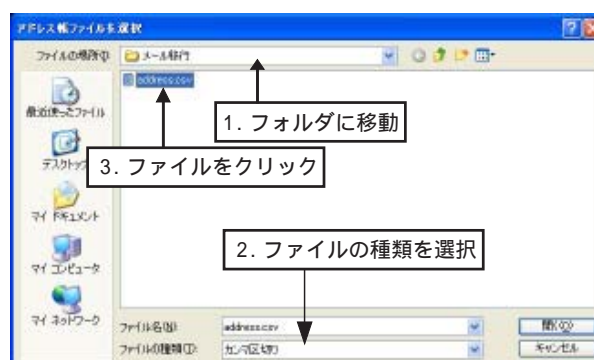


(図 4-9)



(図 4-10)

- (4) 「アドレス帳ファイルの選択」画面が表示されたら、ファイルを保存しているフォルダに移動し、ファイルの種類は「カンマ区切り」を選択し、インポートするファイルをクリックしたら「開く」ボタンをクリックします。(図 4-11)



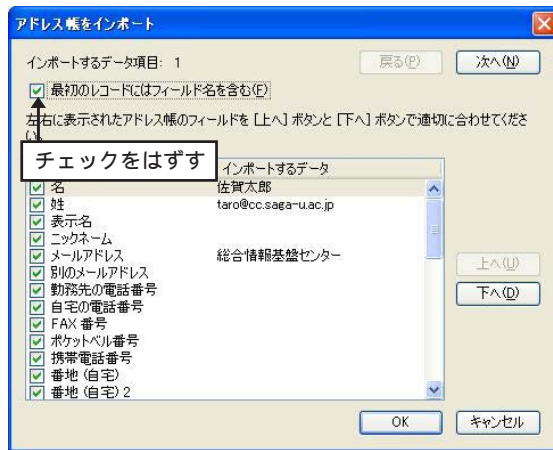
(図 4-11)

- (5) 「アドレス帳をインポート」画面が表示されたら、「最初のレコードにはフィールド名を含む」のチェックをはずします。

(図 4-12)

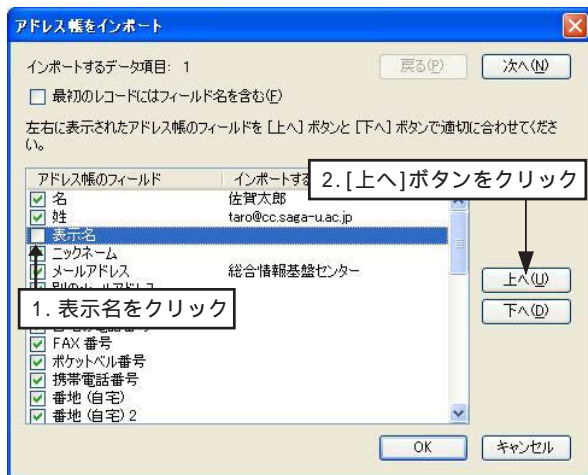
次に「アドレス帳のフィールド」と「インポートするデータ」を合わせます。

(図 4-13)

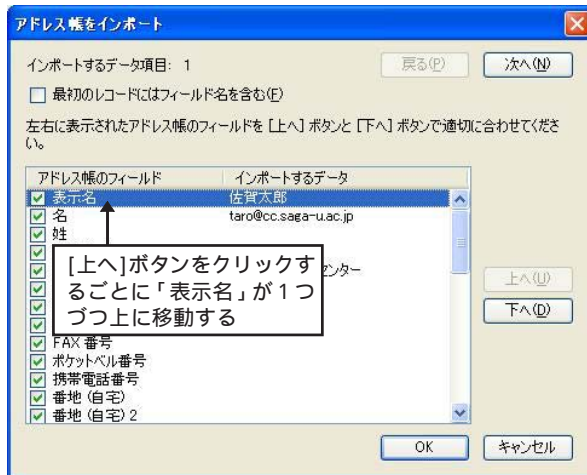


(図 4-12)

- (6) 「佐賀太郎」を「表示名」にする場合は、「表示名」をクリックし、[上へ]ボタンをクリックして「表示名」を「佐賀太郎」と同じ行に移動させます。再度「表示名」をクリックして「表示名」のチェックボックスにチェックを入れます。(図 4-14)



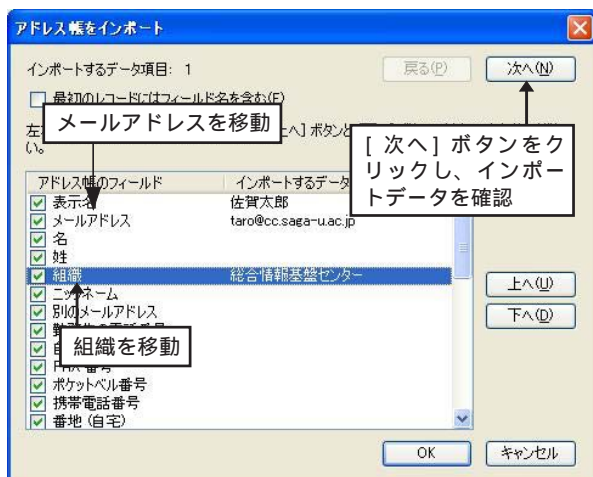
(図 4-13)



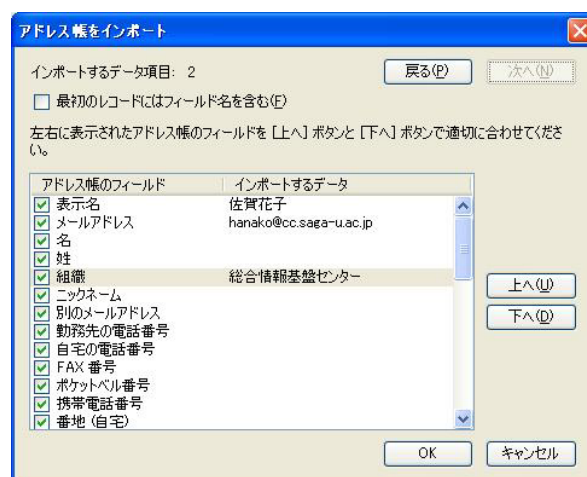
(図 4-14)

上記の手順で、その他の「アドレス帳のフィールド」を移動させます。(図 4-15)

[次へ]ボタンをクリックしインポートデータを確認したら、[OK]ボタンをクリックしてデータをインポートします。(図 4-16)



(図 4-15)

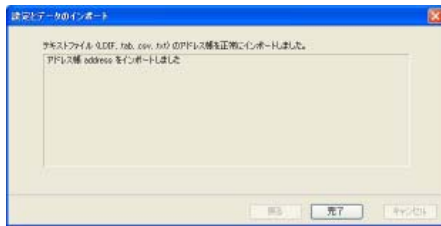


(図 4-16)

(7) データのインポートが終了したら、「設定とデータのインポート」画面の[完了]ボタンをクリックします。(図 4-17)

「アドレス帳」にインポートしたファイル名が表示されたら作業が終了です。

(図 4-18)



(図 4-17)



(図 4-18)

Winbiffのアドレス帳は、フォルダごとにはエクスポートされませんので、アドレス帳をThunderbirdにインポートした後にフォルダを作成してアドレス帳を仕分けしてください。

5. おわりに

Winbiff以外のメールソフトでもメールを mbox 形式ファイル、アドレス帳を csv 形式などのファイルでエクスポートできる機能があれば、Thunderbirdに移行することができます。

なお、Thunderbirdには、outlookやoutlookExpress、Eudoraなどのメールフォルダとアドレス帳をインポートする機能が標準装備されていますので、もっと簡単な操作でThunderbirdに移行できるようになっています。